D 小学校 知的障がい特別支援学級 国語科

『ひらがなの読み書きの力を育む個別指導』

1 研究テーマ設定の背景

本学級は、1年生1名、2年生1名、3年生3名、4年生2名、6年生1名の計8名である。そのうち、6名が今年度より在籍しており、研究対象の3年生 A 児もその一人である。

A 児は課題の量が多かったり、内容が難しかったりすると、すぐにあきらめてしまう傾向がある。解ける問題でも、集中力が続くのは10分程度である。日常会話や簡単なやりとりは比較的スムーズに行うことができる。

「読むこと」に関しては、文を言葉のまとまりで読むことができず、一字ずつ拾い読みになるため、内容まで理解することは難しい。言葉のまとまりに分けて範読をすると、同じように続けて読むことはできるが、文字を追うことはできていない。ひらがなは、清音を20字ほど読むことができておらず、幼少期に文字に触れる経験が少なかったことが影響していると思われる。

「書くこと」に関しては、形を整えて書くことが難しい。雑に書いてしまうことが多く、なぞる時も、気をつけてゆっくり書くように声をかけないと線からはみ出してしまう。

ひらがなの定着を図るのは学校だけでは難しいので、家庭にも協力をお願いしているが、祖父母と暮らしていて、家庭学習の定着を図ることは難しい状況である。

本学級での授業は、主に国語科と算数科を行っている。異学年・複数名での学習になることがほとんどであり、1時間の授業の中で A 児に十分な指導時間を確保することが難しい。

また、交流学級と同じ宿題をさせたいという他の保護者の強い思いがあり、準ずる教育課程になっていて、交流学級の進度に遅れないように進めていかなければならない。

そのため、A 児の実態に合った授業を行うことができていない。

以上のことから、A 児が学習の成果を実感し、学習意欲を持続させるための支援が十分ではないため、短時間で効率的に行えるひらがな指導について研究した。

2 研究内容

取り組む量を限定して、短時間で意欲的に集中して学習することができるようにするため週に1回、授業の終わり約5分間で個別指導を行う。

（1） 音声言語と文字言語の組み合わせによる指導

・耳で聴く音と文字で見るひらがなを結びつけるために、カルタなどの遊びを通して取り組む。

・ひらがな1字1字を視覚的な手がかり（動物や果物などの絵）と関連付けて覚えさせる。

・学習したひらがなを日常生活と結びつける。

（2） タブレットの効果的な活用方法

・タブレットで音を確認したり、書き順を確認したりしながらなぞらせる。

3 授業構想

（1） 育成したい力

読み書きできるひらがなが増えることで、学習に進んで取り組むことができる。

（2） 評価方法と視点

	評価方法		視点
読み	①	ひらがなを認識し、一字ずつ読むことができる。 清音 46文字全て	絵は見せずに、文字のみで読ませる。
	②	物の名前を読むことができる。70%以上	絵は見せずに、文字のみで読ませる。
	③	簡単な文を読むことができる。50%以上	言葉のまとまりで読むことができるよう、区切り線を入れて読ませる。
書き	④	聞いたひらがなを書くことができる。 清音 46文字全て	「ほ」でわからない時は、「ほし」の「ほ」などヒントを出す。
	⑤	聞いた言葉や絵を見て、物の名前を書くことができる。 70%以上	何文字になるかを確認して、文字数分のマスを書いておく。

4 実践の経過

ひらがなの定着状況や WISC-Ⅳの検査結果をもとにしながら、週に1回程度、個別指導を5分間行った。難易度が高いとすぐにあきらめたり、集中力に欠けたりする傾向があるため、遊びを取り入れながら行った。

A 児は、複雑な視覚処理の苦手さと耳からの情報記憶の低さがあるため、『読み』と『書き』を分けて行う方がよいことから、『読み』と『書き』の学習を分けて行うようにした。

『読み』の学習については、6月中旬から10月中旬に計12日間である。

各5分間で、以下のことを2つずつぐらい組み合わせながら、『読めないひらがな』にしぼって学習を行った。

以下に学習内容とその結果等を記している。

	学習内容・方法等	実施月	回数	学習形態	結果	
①	ひらがな1文字かるた 20字（う、き、け、さ、な、ぬ、ね、の、ふ、へ、ほ、る、れ、ろ、む、や、ゆ、よ、わ）	6月	5回	個別		
	ひらがな1文字かるた 9字（け、ぬ、ほ、む、や、ゆ、ら、る、ろ）	10月		個別		
②	しりとり	6月～10月	2回	3人	○	音韻を捉えたり、操作したりはできた
③	ひらがな積み木 ※ひらがなを読みながら、積み木を積み上げたり、ドミノをしたりした	6月～10月	2回	個別	○	
④	サイコロゲーム ※教師と一緒に音韻を確認しながら行う	6月～10月	3回	個別	×	
⑤	ばらばらクイズ	6月～10月	2回	個別	○	3文字程度だったので、順番に並び替えることができた
⑥	あいうえお表 ※は行からは、教師と一緒に確認した	6月～10月	2回	個別	△	あ行～た行はだいたい読めた
⑦	文字を50音順に並べる	6月～10月	2回	個別	×	・は行はできなかった。 ・け→む、ぬ→や、む→ら、よ→ろと間違いが見られた
⑧	「絵」と「文字」のマッチング ※2つのカードを見せて、言葉を選ぶようにした	6月～10月	2回	個別	○	

⑨	「文字」と「音」のマッチング ※2るのカードを提示し、言われた言葉を選ぶようにした	6月～ 10月	2回	個別	○	
⑩	一文字ずつの「読み」を確認 ※絵カードを見せて、音韻がいくつかを教師と一緒に確認した	6月～ 10月	2回	個別	△	

以上の学習により、読めないひらがなが20字から9字に減った。残り9字については、読むことがなかなか定着しなかったので、放課後デイサービスなど、学校以外でも支援できるところがないかをSSWの先生に相談したところ、市内にはA児の実態に合う施設はないということや「どの部分で困りがあるのかを確認してみるとよいのではないか」といったアドバイスを受けた。

そこで、『ビジョントレーニング』や『ひらがな単語聴写テスト』を行うことにした。

10月下旬からは、『ビジョントレーニング』も取り入れながら、『書き』を中心に行い、『読み』『書き』両方の定着を図った。行った日数は計8日間である。

以下のことを2つずつ組み合わせながら、『読み』『書き』ができないひらがなにしぼって定着を図った。

＜ビジョントレーニング＞

	学習内容	学習の目的	学習回数	結果	
①	迷路	眼球運動	2回	×	線をたどるものは、雑になりはみ出した
②	形と場所の記憶（基礎）	視空間認知	1回	×	複雑なもの難しい
③	点つなぎ	視空間認知	2回	×	複雑なもの難しい
④	順番の記憶	視空間認知	1回	×	形が描けない
⑤	折り紙	目と体のチームワーク	2回	×	不器用さが目立った

＜読み・書き＞

	学習内容		学習回数	結果	
①	音韻確認 ※手拍子で視覚化した	いくつの音韻にわかれているか	2回	×	
②	音のあるないクイズ	○がつくことば	2回	×	途中にその文字が含まれていると難しい
③	動物の進んだコースを描く視写		1回	△	3問中2問正解
④	絵と言葉を結ぶ		2回	○	
⑤	絵を見て文字を書く		2回	×	ちゃ、ちょ、しゃ
⑥	絵カードを見て文字を書く		4回	○	にく、とうふ
				×	やきとり、めだまやき
⑦	日常生活で馴染みのある言葉を書く		4回	○	なぞり書き
				×	絵を見て思い出して書く

＜タブレットを用いた学習＞

	学習内容	学習回数	結果		結果後の指導
①	なぞルート	1回	△		直線や曲線をなぞって、ひらがなを書く時の手の動きを練習した

②	たのしい!ひらがな	2回	△	無料アプリは、「あ行」から「た行」までの対応となっており、「は行」から後はできなかった	5分間の個別指導では、「け」と「ぬ」を行った
③	なぞっておぼえる	2回	△	・飛行機やロケットなどのアニメーションを動かして、ひらがなの書き順を学んだ。 ・ひらがなは特定できなかった。	

5 実践結果の分析

		評価方法	評価	視点
読み	①	ひらがなを認識し、一字ずつ読むことができる。 ・ひらがなカード ○46文字 △「ぬ・ら・ろ」 ・ランダム読み ○46文字 △「う・と・よ」	○	絵は見せずに、文字のみで読ませた。言い直した文字も○にしている。
	②	物の名前を読むことができる。70%以上 ・物の名前カード 10問中 ○10問 ・3つの言葉読み 100問中 ○66問 ×「え・か・き・く・け・こ・し・さ・す・せ・た・つ・て・と・な・ぬ・ね・ひ・ま・み・も・り・わ・ん」が入っている言葉	×	文字のみで読ませた。 ・物の名前カードは読んだことがあるカードで行った。 ・3つの言葉読みは初めて読ませた。同じものが2・3回出てきたが、数にカウントした。
	③	簡単な文を読むことができる。50%以上 ・20問中 ○12問 ×8問 ・あいうえおのうた ×拾い読み	×	文のみを言葉のまとまりで読むことができるよう、区切り線を入れて読ませる予定だったが、絵をヒントに読ませた。
書き	④	聞いたひらがなを書くことができる。46文字。 ・○44文字 ×「ぬ」「ら」	×	「ぬ」と「ら」のみ、「ぬりえ」の「ぬ」、「らいおん」の「ら」とヒントを出した。
	⑤	聞いた言葉や絵を見て、物の名前を書くことができる。 ・清音のみ10問 ○ 苦手な「ぬ・ら・や・よ」もできた。 ・30問 ○14個 ×16個 濁音、促音、拗音	×	・清音のみだったので、何文字になるかマスを書かなくてもできた。 ・10 月に行った聴覚テストを再度行った。前回は○が8個だった。

6 成果と課題

注意力が乏しく、集中力の続かない A 児にとっては、短時間での指導は効果があった。ただ、行事や他の学年との重なりなどで、予定通りの指導時間が確保できなかった。

また、評価をする時は5分間では足りず、当該学年の評価テストの時間から捻出をしなければならなかった。

A 児に劣等感を抱かせないようにするとともに、他の同学年の児童への配慮も行ってきた。語彙を増やし、言葉に慣れさせるためには、毎日少しずつ繰り返し練習をする必要がある。今後も A 児と他の児童への配慮をしながら、できる限り個別指導の時間を確保していきたい。

音声言語と文字言語の組み合わせによる指導では、1字ずつ確実に読めるようにするためには、『かるた』や『あいうえお表』での指導が効果的だった。

タブレット学習は、無料アプリでは限界があり、効果的な活用方法は見出すことは難しかったが、意欲や書き順確認などでは効果があった。

読むことができるひらがなは、1字ずつであれば46文字全て読むことができるようになった。
しかし、1字ずつでは読むことができていても、物の名前などの言葉になると読めなくなる字が多い。文になると、さらに思い出すまでに時間がかかり、すらすら読むことは12月になってもできないままだった。濁音、半濁音、拗音、長音、くっつきの「は」「を」「へ」などが混ざると、読むことがさらに困難になるので、今後は言葉や文での指導を中心にしていく必要がある。
書くことができるひらがなは44字に増えた。以前は慌てて書いて雑な字が多かったが、鉛筆の補助具を使用したり、濃い鉛筆を使わせたり、声かけをしたりすることにより、少しずつ本人の意識が変わり、丁寧に書こうとするようになってきている。また、わからない字があったら進んでひらがな表で確認をする姿も見られるようになってきた。丁寧に書くことで集中力が高まり、字を覚えることにつながると思われるので、引き続き意識させていきたい。

7 課題解決の方向性

約5分間の個別指導を週に1回程度行ってきたが、週に1回ではなく、できる限り毎日継続できるように時間を確保する。
視覚よりも聴覚が優位かと思われるが、耳からの情報記憶の低さもあるため、今までと同様に音を取り入れた覚え方に加えて視覚情報も時々入れながら練習をしていく。
語彙を増やし、見覚えのある、聞き覚えのある言葉を増やすことで音読の速度が少しでも高まると思われるので、単語を繰り返し読んだり、短い文の読み聞かせをしたりする。
また、他の児童との差を感じて劣等感を抱かせないように配慮しながら、目標を達成することができたら、シールやスタンプで見える化をして、学習への意欲を継続させたい。
家庭や市の福祉課などと、今まで以上に連携を深めながら4年生へとつなげていきたい。